

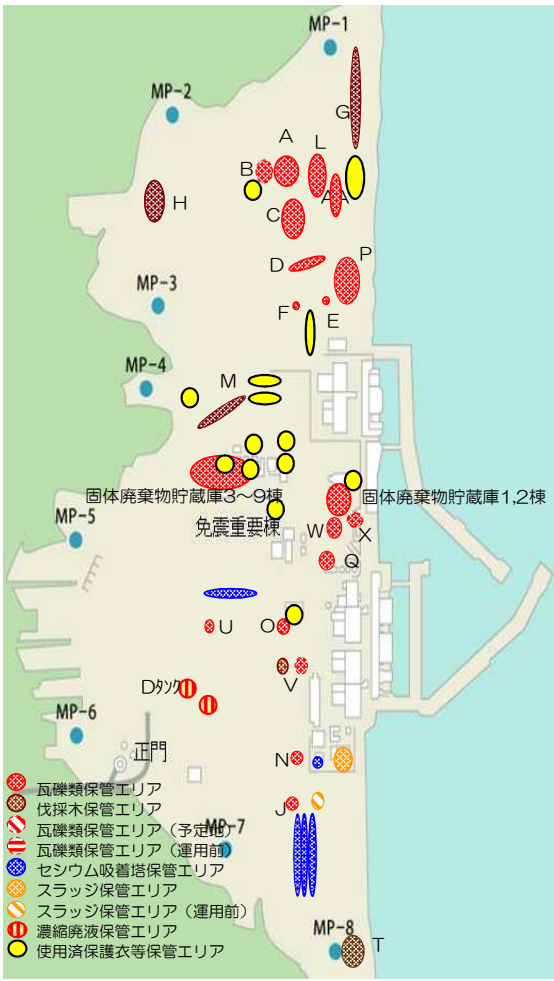
瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.5.29時点)

分類		保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量		前回集約からの増減※1 (2020.4.30 - 2020.5.29)		変動※2 理由	エリア 占有率	保管量※3／保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.25	300	m ³	-100	m ³	⑤	0 %	212000 / 266500 (80%)	・フランジタンク解体片 2020年5月末時点でコンテナ1,043基保管。 エリアP1 コンテナ数：627基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：416基 (2018年3月15日～) ・エリアAの運用変更により、保管容量（13,800m ³ ）増加。 (2020年1月) ・エリアAは1～30mSv/hの瓦礫類を仮設集積中。これら瓦礫類を固 体庫に移動後、低線量率瓦礫類一時保管エリアとして使用予定。
		B	屋外集積	0.01	5,300	m ³	0	m ³	—	100 %		
		C	屋外集積	0.01未満	63,300	m ³	微増	m ³	②③⑧	100 %		
		F 2	屋外集積	0.01未満	6,400	m ³	0	m ³	—	85 %		
		J	屋外集積	0.01	6,200	m ³	0	m ³	—	78 %		
		N	屋外集積	0.01未満	9,600	m ³	0	m ³	—	96 %		
		O	屋外集積	0.01未満	44,000	m ³	0	m ³	—	86 %		
		P 1	屋外集積	0.01未満	56,400	m ³	+700	m ³	①④⑧	88 %		
		U	屋外集積	0.01未満	700	m ³	0	m ³	—	100 %		
		V	屋外集積	0.01	6,000	m ³	0	m ³	—	100 %		
	AA	屋外集積	0.01未満	13,700	m ³	+300	m ³	⑥	38 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600	m ³	0	m ³	—	58 %	42700 / 71000 (60%)	・エリアWでの車両解体（プレス等）完了。(2018年1月)
		E 1	シート養生	0.02	14,300	m ³	0	m ³	—	89 %		
		P 2	シート養生	0.01	5,800	m ³	0	m ³	—	64 %		
		W	シート養生	0.03	12,100	m ³	微減	m ³	①②⑤	41 %		
		X	シート養生	0.01	7,900	m ³	0	m ³	—	65 %		
	覆土式一時保管施設、 容器（1～ 30mSv/h）	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000	m ³	0	m ³	—	100 %	17900 / 24600 (73%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量（4,000m ³ ）増加。 (2018年5月) ・エリアAの運用変更により、保管容量（7,100m ³ ）減。 (2020年1月)
		E 2	容器※4	0.01未満	1,200	m ³	0	m ³	—	68 %		
		F 1	容器	0.01未満	600	m ³	0	m ³	—	99 %		
		Q	容器	0.04	0	m ³	微減	m ³	⑤	0 %		
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器※4	0.01	22,400	m ³	+300	m ³	①⑤	47 %	22400 / 48000 (47%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量（33,600m ³ ） 増加。 (2018年2月)
合計（ガレキ）					295,000	m ³	+1,200	m ³	—	72 %		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300	m ³	0	m ³	—	63 %	97000 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700	m ³	0	m ³	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600	m ³	0	m ³	—	88 %		
		V	屋外集積	0.01	400	m ³	0	m ³	—	7 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	m ³	0	m ³	—	88 %	37300 / 41600 (90%)	
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m ³	0	m ³	—	94 %		
合計（伐採木）					134,300	m ³	0	m ³	—	77 %		
保護衣	屋外集積		容器	0.02	41,400	m ³	-2,800	m ³	⑩	61 %	41400 / 68300 (61%)	・使用済保護衣等焼却量 7,673t（2020年5月末累積） ・焼却灰（プラスチック含む）のドラム缶数 1,873本（2020年5月末累 積）
合計（使用済保護衣等）					41,400	m ³	-2,800	m ³	—	61 %		

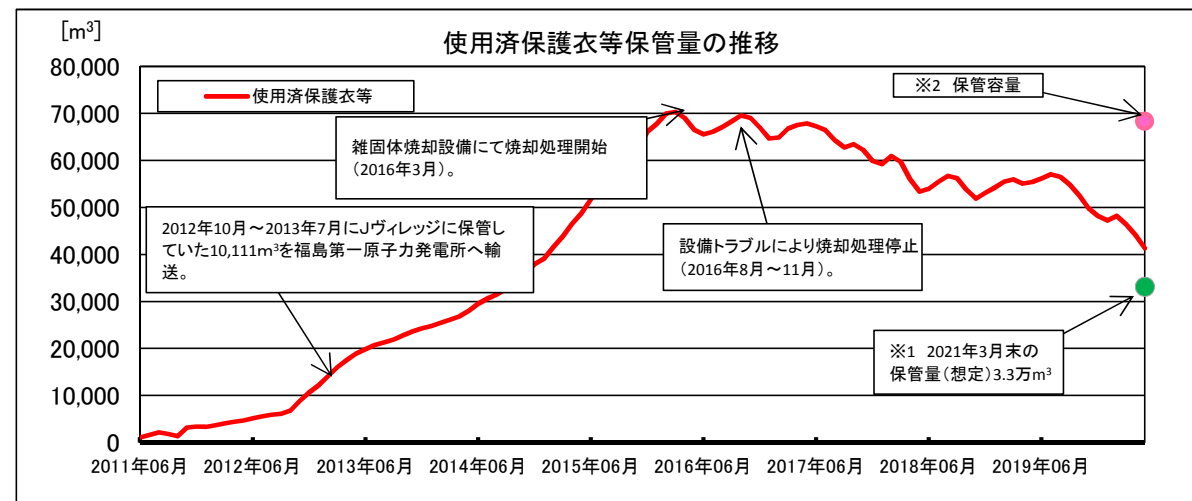
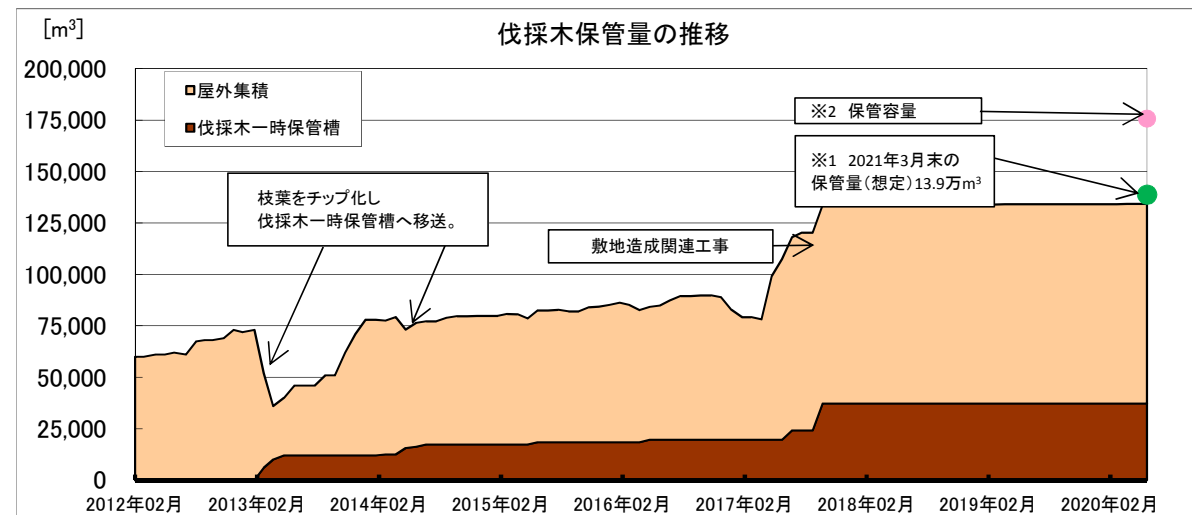
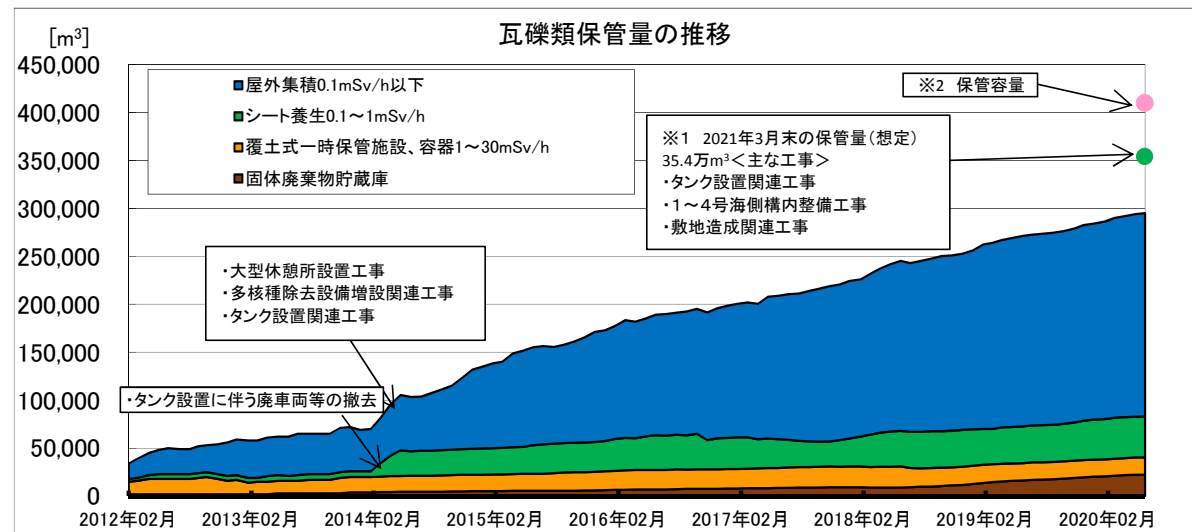
※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
※2 主な変動理由：①1～4号機建屋周辺関連工事 ②タンク関連工事 ③敷地造成関連工事 ④構内一般廃棄物
⑤エリア整理のための移動 ⑥フランジタンク除染作業 ⑦伐採木受入 ⑧港湾関連工事 ⑨水処理設備関連工事 ⑩焼却運転
※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
※4 水処理二次廃棄物（小型フィルタ等）を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.6.4時点)

分類	保管場所	種類	保管量		前回集約からの増減 (2020.5.7 - 2020.6.4)		保管量／保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779	本	0	本	4820 / 6372 (76%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可（2015年12月14日） ・使用前検査完了（2017年5月26日）に伴う保管容量増（第四施設架台129塔分）	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	232	本	+2	本			
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	2	本	0	本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,777	基	+34			基
			増設	1,727	基	+25			基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	74	本	0			本
		多核種除去設備処理カラム	既設	17	塔	0			塔
	モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		212	本	0	本			
	廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ	417	m ³	0	m ³	417 / 700 (60%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 ・Dビット除塩作業終了に伴い廃スラッジの量が減少した。（2020年4月末）	
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,379	m ³	+22	m ³	9379 / 10300 (91%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。（現場パトロール異常なし） ・水位計0%以上の保管量 9,279 [㎡] タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[㎡]	

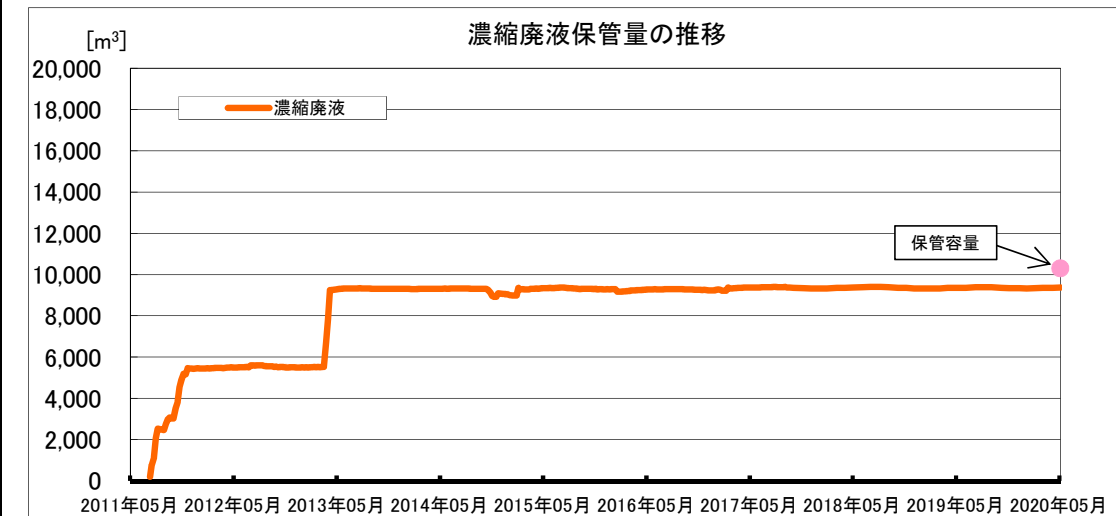
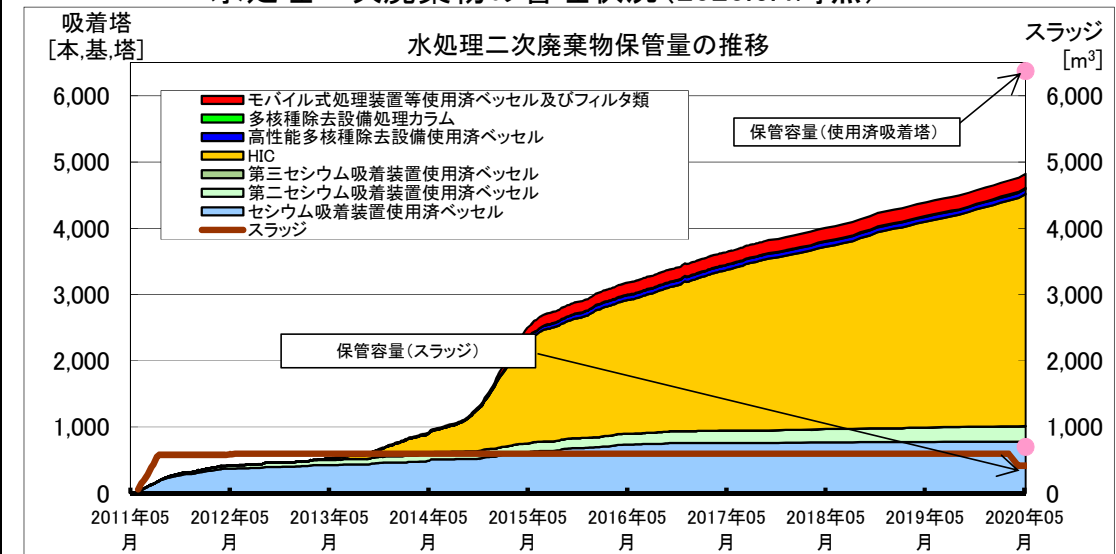


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.5.29時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2020年6月16日認可)の予測値を示す。
※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.6.4時点)



廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」の訂正について

2020年7月2日

東京電力ホールディングス株式会社

概要

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の作成・確認を行っていたところ、当該資料内の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値が、社内管理値※と異なっていることを確認
- そのため、2020年5月28日開催の廃炉・汚染水対策チーム会合 第78回事務局会議の「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の資料において、固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値を訂正した
 - 訂正前: 45,600m³
 - 訂正後: 48,000m³
- その後、過去の会議資料を調査した結果、2014年7月31日開催の廃炉・汚染水対策チーム会合 第8回事務局会議の「ガレキ・伐採木の管理状況(2014.6.30)」以降の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値が社内管理値※と異なっていることを確認

※実施計画で認可を得た値に対し、保管状況を考慮して設定した運用管理上の値
(実施計画の値に対し余裕を持った少ない値で管理)

訂正箇所

■ 下記資料中の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値を下記の通り訂正する

資料名	訂正前	訂正後
廃炉・汚染水対策チーム会合 第8回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2014.6.30時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第20回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2015.6.30時点)」	12,000m ³	19,300m ³ ※2
廃炉・汚染水対策チーム会合 第21回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2015.7.31時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第51回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2018.1.31時点)」※1	12,000m ³	14,400m ³ ※2,3
廃炉・汚染水対策チーム会合 第52回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2018.2.28時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第77回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.3.31時点)」	45,600m ³ ※4	48,000m ³ ※2,3,4

※1: 廃炉・汚染水対策チーム会合 第29回事務局会議から、使用済保護衣等の記載が追加されたため、
資料名を変更

※2: 2014年6月25日実施計画変更認可(未反映分の訂正)

※3: 2015年7月17日実施計画変更認可(未反映分の訂正)

※4: 固体廃棄物貯蔵庫第9棟運用開始(反映済)

原因と対策

原因

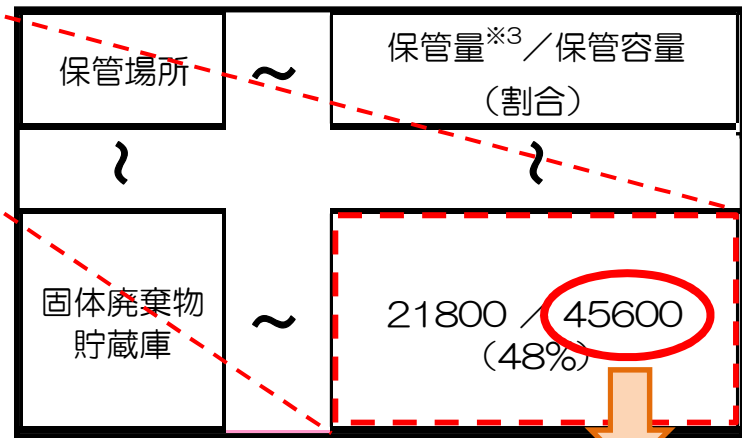
- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」は固体廃棄物の保管量を毎月更新してお示ししているものである一方で、固体廃棄物貯蔵庫の保管容量は頻繁に変更になる値ではない。そのため、当該資料の作成に際して、保管容量の数値の変更管理を失念し、管理状況に応じた管理値の変更や、実施計画変更状況の反映をしていなかった
- また、当該資料を作成するにあたり、手順書は定められていなかった

対策

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」の作成手順書を作成

(参考)「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の訂正内容

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.3.31 時点)									
分類	保管場所	保管方法	エリア別 保管容量 (m³/Sub)	保管量	前回集約からの増減 (2020.2.28 - 2020.3.31)	変動理由	エリア 占有率	保管量※³ / 保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 (0.1m³以下)	A	屋外集積	0.21	400	m³	減量	0 %	209700 / 266500 (79%)	・フランタタンク鋼片 2020年3月末時点でコンテナ1,000個貯蔵。 エリアP-1コンテナ数: 622個 (2019年6月1日～) エリアAAコンテナ数: 385個 (2019年3月1日～) ・エリアAの貯蔵状況により、保管容量 (13,800m³) 超過。 (2020年1月) ・エリアAは1～30m³/㎡の瓦礫等を貯蔵する。これら瓦礫等を固形廃棄物に 移動し、倉庫敷地内一帯を保管エリアとして使用予定。
	B	屋外集積	0.01	5,300	m³	0	100 %		
	C	屋外集積	0.01未満	63,100	m³	-100	100 %		
	F-2	屋外集積	0.01未満	6,400	m³	0	85 %		
	J	屋外集積	0.01	6,200	m³	0	78 %		
	N	屋外集積	0.01未満	9,600	m³	0	96 %		
	O	屋外集積	0.01未満	44,000	m³	+100	86 %		
	P-1	屋外集積	0.01未満	54,700	m³	+500	85 %		
	U	屋外集積	0.01未満	700	m³	0	100 %		
	V	屋外集積	0.01	6,000	m³	+100	100 %		
シート類 (0.1～1m³/㎡)	AA	屋外集積	0.01未満	13,100	m³	+600	36 %	42700 / 71000 (60%)	・エリアWでの車両搬入(プレス等)完了。(2018年1月) ・主な瓦礫等は、1～3号機工事等で発生した瓦礫等。 ・重土式4機の入庫開始に伴い、保管容量 (40,000m³) 超過。 (2019年5月) ・エリアAの貯蔵状況により、保管容量 (13,800m³) 超過。 (2020年1月)
	D	シート養生	0.01未満	2,600	m³	0	58 %		
	E-1	シート養生	0.02	14,300	m³	+100	89 %		
	F-2	シート養生	0.01	5,800	m³	0	64 %		
	W	シート養生	0.03	12,100	m³	+100	41 %		
	X	シート養生	0.01	7,900	m³	0	65 %		
重土式・軽鉄骨造、 鉄骨 (1～30m³/㎡)	L	重土式一時保管施設	0.01未満	16,000	m³	0	100 %	17900 / 24600 (73%)	・主な瓦礫等は、1～3号機工事等で発生した瓦礫等。 ・重土式4機の入庫開始に伴い、保管容量 (40,000m³) 超過。 (2019年5月) ・エリアAの貯蔵状況により、保管容量 (13,800m³) 超過。 (2020年1月)
	E-2	重土式	0.01未満	1,200	m³	減量	68 %		
	F-1	重土式	0.01未満	600	m³	0	99 %		
	Q	重土式	0.04	0	m³	0	0 %		
固形廃棄物貯蔵庫	固形廃棄物貯蔵庫	重土式	0.01	21,800	m³	+700	48%	21800 / 45600 (48%)	・主な瓦礫等は、1～3号機工事等で発生した瓦礫等。 ・固形廃棄物貯蔵庫の貯蔵容量 (2019年2月)
合計 (ガレキ)				292,000	m³	+2200	72 %		
伐採木 (幹・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	25,300	m³	0	63 %	97000 / 134000 (72%)	・固形廃棄物貯蔵庫の貯蔵容量 (2019年2月)
	G	屋外集積	0.01未満	31,700	m³	0	74 %		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600	m³	0	88 %		
	V	屋外集積	0.01	400	m³	+100	7 %		
	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	m³	0	88 %		
	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m³	0	94 %		
合計 (伐採木)				134,300	m³	+100	77 %		
保護衣類	重土式	重土式	0.02	46,400	m³	-1,800	68 %	46400 / 68300 (68%)	・使用済保護衣類貯蔵庫 ・使用済保護衣類貯蔵庫
合計 (使用済保護衣類)				46,400	m³	-1,800	68 %		
※1 100m³未満を簡易処理しており、簡易・簡便とは100m³未満の簡便を示す。 ※2 主な変動理由: ①タンク関連工事 ②1～4号機建設22年度建設関連工事 ③倉庫・貯蔵庫 ④倉庫敷地内工事 ⑤フランタタンク取壊作業 ⑥エリア整備のための移動 (A→固形庫、P-1→E-1、W→E-2、固形庫) ⑦砕石搬出し ⑧伐採木搬入 ⑨倉庫敷地内									
※3 簡便処理で100m³未満を簡便処理しているため、合計値が合わないことがある。 ※4 水処理二次廃棄物 (小型フィルタ等) を含む。									
水処理二次廃棄物の管理状況(2020.4.2時点)									
分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 (2020.3.5 - 2020.4.2)	保管量 / 保管容量 (割合)	トピックス			
使用済保護衣類 保管施設	使用済保護衣類 保管施設	セシウム吸着剤使用済バケツ	779	本	0	4718 / 6372 (74%)	・最終一帯貯蔵施設の貯蔵容量が満杯 (2019年12月14日) ・使用済み完了 (2017年5月26日) に伴う貯蔵容量		
		第二セシウム吸着剤使用済バケツ	230	本	+2				
		第三セシウム吸着剤使用済バケツ	2	本	+1				
		多核種除去設備等保管容器	1,727	基	+8				
		多核種除去設備等保管容器	1,677	基	+17				
		高圧洗浄機等保管容器	74	本	0				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	多核種除去設備処理汚泥	17	基	+2	597 / 700 (85%)	・貯蔵施設の貯蔵計画は満杯、新たに貯蔵容量が増える見込みはない。 ・容量がいっぱい後、貯蔵施設の増設について実施計画の策定中である。		
		モバイル式処理装置等使用済バケツ及びフィルタ類	212	本	+2				
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	濃縮廃液	597	m³	0	9356 / 10300 (91%)	・タンク内の廃液は、計画容量の4%の余裕がある。(計画容量は10,000m³) ・水処理6号機以上の貯蔵容量: 8,256m³ ・タンク内側～水処理6号機までの貯蔵容量: 約10,000m³		
		濃縮廃液	9356	m³	+11				



TEPCO